平成 28 年度第 4 回小学校ゼミナール記録（八島班）

参加者：八島(授業者)，新田(広島大学附属小教諭)，影山(広島大学准教授)，石橋，米山

1．協議事項

広島大学附属小学校研究大会の振り返り

小学校算数科第 2 学年「ひょうやグラフをつかって」における授業の反省

2．協議内容

2 月 11 日(土)に広島大学附属小学校で実施された，小学校算数科第 2 学年「ひょうやグラフをつかって」における授業についての反省を行った。本授業は，PPDAC サイクルを 45 分間の授業の中で行うことを意図し,「多様な視点でデータを見ること」を目標とした。さらに，そのための下位目標として，資料を目的に応じて表やグラフに整理したり，傾向や特徴を読み取ったりすることを設定した。授業内容は，教師が提示したじゃんけんの結果から，じゃんけんの「くせ」を統計的に調べるための視点を児童から聞き，それぞれの視点から分析を行い，複数の情報を合わせて読むことを通して，じゃんけんに勝つための作戦を立てるというものであった。

3．授業内容に関わる議論

〇問題化について

授業の導入を，検討会の時に予定していたビデオを見せることから,「挑戦状」を見せることに変えた。これは，ビデオを見せると時間が無くなることや，学級が興奮しやすいという特徴を持った集団であると授業者が判断したためである。導入方法を変えたことにより，児童がスムーズに問題状況を受け入れ，授業に入ることができていた。

〇計画について

本時では，じゃんけんの「くせ」を調べるための視点を児童から出させた。その際に，「一番多く出すもの」,「どちらが強いか」,「1 回目に何を出すか」という意見は出たが，授業者が着目してほしい点の一つである「続けて出すもの」という意見は出なかった。そのため, 本時までの学習を振り返り, 誘導を行った。ここに時間をかけ過ぎたことにより，分析の途中で授業が終了してしまうことになった。

〇分析について

本時は，児童から出た 4 つの視点を教師が割り振り，ペアで分析を行った。ペアで話し合い，目的に応じて表やグラフを選択し，資料を整理し発表した。ここで授業が終わったため，その後の授業で複数の情報を合わせて読むことを行い，作戦を立てた。授業の終わりの「この作戦で必ず勝てるね」という教師の発言に対し,「そうとは言えないよ」と発言する児童がいるなど，確率的な感覚をもっていることがわかり，授業の中で今後の学習に活かせる発言を拾っていく必要があるという結論に至った。

（文責：米山 京香，石橋 一昴）